

平成29年度 研究紀要

基礎的・基本的な内容を確実に 身に付けた生徒の育成

～見通しをもたせる授業の「ねらい」づくりと
振り返り学習を通して～



沼田市立薄根中学校



薄根中学校研究紀要 目次

I 研究の概要

1 研究主題	3
2 主題設定の理由	3
3 研究のねらい	4
4 研究の内容・方法	4
5 研究の組織	4
6 研究の構想	6
7 研究のあゆみ	7

II 各教科の実践

実践1 国語科	10
実践2 社会科	14
実践3 数学科	15
実践4 理科	21
実践5 英語科	24
実践6 音楽科	30
実践7 保健体育科	32

III 研究の成果と課題

1 研究の成果	35
2 研究の課題と解決に向けての取り組み	35
資料1 各教科における目指す生徒像及び振り返り活動	
資料2 授業実践 成果と課題	
資料3 家庭学習習慣の定着に向けて・・・学習の手引き	

I 研究の概要



1 研究主題

基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成
～見通しをもたせる授業の「ねらい」づくりと振り返り学習を通して～

2 研究主題設定の理由

(1) 学校の教育目標とのかかわり

本校の学校教育目標は、「知性に富み、たくましく、豊かな人間性を育てる教育を推進し、自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒を育成する」である。具体目標を「英知（自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒）」「健康（自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒）」「友愛（自らに厳しく、思いやりのある、明るく礼儀正しい生徒）」としている。本年度の学校経営方針の重点の一つに、「確かな学力を身に付けさせる指導の改善と充実」を掲げている。学習指導要領総則にも記されているように、見通しを立てて振り返る学習活動は全ての教科で重点的に取り組むべき課題でもある。生徒が見通しをもてるようねらいを精選し、授業内容について振り返り活動に視点を当てた校内研修を積み重ねて行くことにより、「英知」の具現化を図り、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成を目指す。

(2) 生徒の実態とのかかわり

昨年度から、振り返り学習に焦点を当てた授業実践を行い、教師・生徒間で振り返る学習活動が身に付いてきた。振り返り学習を取り入れた活動は生徒に学びの自覚化をうながしており、継続的に取り組むことが基礎的・基本的な内容を確実に身に付けることにつながっていくと考える。本校生徒の特徴として授業に真剣に参加し、教師の与えた課題に対して意欲的に取り組むことができる。しかし自らの考えを発表できる生徒や、見通しをもって課題に取り組んでいる生徒はまだ少ない。生徒に授業の導入で示すねらいを明確にすることで、生徒が見通しをもって主体的に学ぶことができるのではないかと考える。

(3) 昨年度までの研修とのかかわり

昨年度から、「振り返り学習」に視点を当てた授業実践を行い、教師・生徒の間にも共通理解できてきた。しかし、振り返りの時間の確保や、振り返りに書く内容について、教師のねらいとするものではないものが見られるなど課題が残った。そこで本年度は、授業のはじめに本時のねらいを明確に分かりやすい言葉で提示し、そのねらいに沿った「振り返り学習」が行えるよう取り組んでいく。

(4) 教職員の指導の在り方とのかかわり

教職員の授業力の向上は群馬県をはじめ、全国の学校共通の重点項目とも言える。指導力の向上のためには、自分以外の授業の参観が効果的である。参観を通してこれまでになかった視点を取り入れることや、指導方法だけでなく生徒とのかかわり方など学べることは多い。本校はこれまでも代表授業をはじめ、一人一授業を実践してきており、今年度も互いに授業を見合う中で指導力を向上させていきたい。また、授業のねらいを指導案検討会を通して協議することで、今まで気がつかなかった視点を取り入れていくことは、教職員の資質向上に資する。そしてねらいに沿った振り返りを行うことで、生徒の実態を捉え、分かりやすい授業づくりに活かすことができると考える。

3 研究のねらい

各教科を通して生徒の実態や授業で身に付けさせたい力を明確化し、課題解決型の授業内容を取り入れた授業の「ねらい」を作成する。ねらいに沿った振り返り学習を取り入れることで、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けた生徒を育成する。

4 研究の内容・方法

① 「ねらい」づくりと振り返り学習を取り入れる際の手順

- 1…生徒の実態を捉えると共に、身に付けたい・伸ばしたい資質や能力を明確にする。
(ねらいの到達点を示す)
- 2…授業において本時のめあてを明確に示すとともに、生徒に授業の見通しをもたせる。
- 3…授業の終末場面で振り返り学習を行うことにより、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成を目指す。

②本時のねらいが達成されたか、変容が見られたか実践を通して検証する。(授業実践：手立ての検証、教科等部会において、一度目で課題を見つけ、改善した授業を積み重ねていく。)

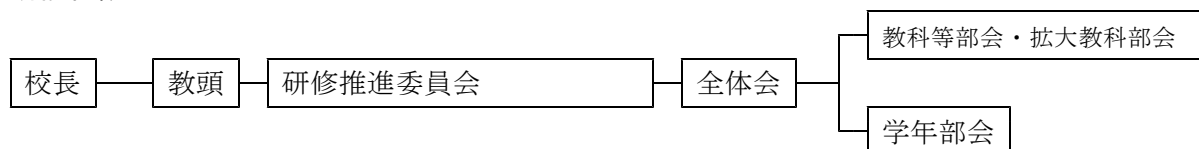
③学力検査や調査の問題傾向の周知、結果の分析を生かした授業や指導計画の改善に努める。

④学習の手引きを配付して授業でも扱い、家庭学習における学習の習慣が身に付くようにする。

⑤授業改善の視点を明確にして、拡大教科部会を中心として指導案検討会・授業研究会を行う。

⑥一人二授業を実践することにより自己課題の改善を行う。

5 研修組織



教科等部会		学年部会（道徳・総合・学活）	
国語部会	西本、大河原、小幡	1 学年部会	反町、鈴木、大河原、林、高橋
社会科部会	宮内、遠峯	2 学年部会	西本、遠峯、上山、坂本
数学部会	浅見、高橋、上山	3 学年部会	藤井、内田、浅見、小幡、岩崎
理科部会	鈴木、内田	拡大教科部会	
英語部会	林、藤井、坂本	部会①(国語・社会科部会)	
技能教科部会	岩崎、反町、	部会②(数学部会)	
道徳・総合・	道徳主任（遠峯）、総合主任（大河原）、	部会③(英語・音楽部会)	
特活部会	特活主任（浅見）、養護（倉澤）	部会④(理科・体育部会)	

（１）教科等部会・拡大教科部会

- ・見通しをもたせるためのねらいづくりと、それを確認する振り返り学習について追究する。
- ・授業実践を計画的・効果的に行う。(授業実践)
- ・家庭学習の仕方について工夫する。(「学習の手引き」の充実・課題の工夫等)

(2) 学年部会

- ・ 学びあえる学年・学級づくり、学習集団づくりに努め、道徳・総合・学活等の実践を行う。
(道徳教育推進教師、人権教育主任・生徒指導主事・S Cとの連携)
- ・ 家庭学習への取り組みを指導し定着化を図る。(「学習の手引き」の活用、宿題ノート)
- ・ 学年の時間を効果的に活用する。(自主学習への取り組み指導、補充学習及び学び合い)
- ・ 規則正しい生活習慣を身に付けさせる。(養護教諭との連携)

H29年度 沼田市立薄根中学校 校内研修研究構想図

学校教育目標

知性に富み、たくましく、豊かな人間性を育てる教育を推進し、自ら考え、正しく判断し、実践できる生徒の育成を図る。

- 英知…自ら学び続け、知性を磨く創造性豊かな生徒
- 健康…自ら鍛え、心身共に健康でたくましい生徒
- 友愛…自らに厳しく、思いやりのある、明るく礼儀正しい生徒

〔研究主題〕

基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成

振り返り学習を取り入れた学習指導を通して

● 目指す生徒像の確認

目指す生徒像

○既習の知識・技能を活用し、主体的に事象の考察や課題解決を行ったり、考察結果や解決過程を筋道立てて説明したりする活動を通して、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒

● 見通しをもたせるためのねらいづくり

生徒の実態を捉え、ねらいの到達点を意識した授業づくりをする。生徒に見通しをもたせるために「めあて」を授業のはじめに明確に示す。

● 振り返り学習を取り入れた学習活動

授業の終末場面に、学んだ内容を生徒個人が、自信の言葉でまとめる振り返り学習を意図的に設定する。教師は生徒のまとめた内容をもとに、次の授業へフィードバックする。

● 一人二授業の推進

ねらいの達成を、実践を通して検証する。（手立ての検証、教科等部会において、指導案検討会・授業研究会を充実し、ねらいの達成につなげる。）

教科経営の充実

授業改善

- 教科等部会・拡大教科部会
- 一人二授業実践
- 授業研究会（教科間の交流）

学習の手引きの活用
授業への取り組みの充実
家庭学習の充実

学年・学級経営の充実

- 学び合える学年・学級づくり
- 規則正しい生活習慣の確立

各学年の取り組み

7 研究のあゆみ

学期	主 な 研 修 内 容
1	〔研究と計画〕 ○研修推進委員会：今年度の研修についての見通し ○研修主題の設定、研修内容と方法の検討、組織づくり ○学力テストの分析結果の検討、生徒の実態把握 ○各教科部会による手立ての検討 ○「学習の手引き」の配付 〔実 践〕 ○授業実践「植物 光合成と二酸化炭素の関係」（1年理科：鈴木教諭） ○授業実践「世界の食文化」（1年社会：宮内教諭） ○授業実践「産業の発達と幕府政治の動き」（2年社会：遠峯教諭） ○授業実践「自己紹介をしよう」（1年英語：林教諭） ○校内授業研究会①「酸とアルカリ」（3年理科：内田教諭） ○授業実践「曲の特徴とオーケストラの響き～交響曲第5番ハ短調～」(2年音楽：岩崎教諭) ○授業実践「なりきりスピーチをしよう」（3年英語：藤井教諭・坂本教諭） ○授業実践「不定詞の形容詞的用法」（2年英語：坂本諭・藤井教諭） ○指導主事訪問A 各教諭
2	○研修推進委員会：2学期の研修の見通し ○研修内容の実践・検証 〔実 践〕 ○校内授業研究会②「和歌から感じた自分の思いを伝え合おう」（3年国語：小幡教諭・西本教諭） ○校内授業研究会③「平面図形」（1年数学：高橋教諭） ○授業実践「関数 $y = ax^2$」（3年数学：浅見教諭・上山教諭） ○授業実践「多角形の内角の和」（2年数学：上山教諭・浅見教諭） ○授業実践「健康な生活と疾病の予防」（3年保健体育：反町教諭） ○授業実践「少年の日の思い出」（1年国語：大河原教諭） ○授業実践「銀河不動産、地球引越計画（人間は他の星に住むことができるのか）」（2年国語：西本教諭） ○指導主事訪問B「先生方の紹介をしよう」（1年英語：林教諭） ○一人二授業 二実践目 各教諭 〔講 習〕 ○救急救命講習 中央消防署
3	○研修推進委員会：今年度の研修の反省と次年度の研修の見通し 〔まとめ〕 ○研究紀要の執筆・編集 ○研修推進委員会：今年度の研修の反省と次年度の研修の見通し ○今年度の研修の成果と課題の検討 ○次年度の研修主題の検討 〔報 告〕 ○特活研修「特活教育指導者養成研修より」（浅見教諭）

	〔研修会〕 ○教育支援研修会 「支援を要する生徒の理解と対応」 講師 利根沼田障害者相談支援センター 所長 仲丸 守彦
--	---

Ⅱ 各教科の実践



実践 1 国語科

1 ねらいに迫るための手立て

国語科では、今年度の研修主題「基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成～見通しを持たせる授業の「ねらい」づくりと振り返り学習を通して～」を受け、本年度も他者の考えを知り、自分の考えと比較することで、違いや良さ、足りない部分に気づき、自分の考えを深めたりまとめたりする生徒の育成を目標として以下のようなねらい作り、振り返り学習を中心として研修を進めてきた。

①その日の学習内容を次時にどのように活かすかを、自分の言葉で書いたり話したりする。

②獲得した知識などから、興味関心を広げたり自分の表現に活かす方法を考えたりする

このような活動を中心にねらい作りや振り返り学習を進めたのは、ねらいと振り返りを一体の活動と捉えたからである。また、目的を持って学習に取り組むことで授業で何を学んだのかを生徒に意識させることで確実な学習内容の定着を図り、さらに学習内容を深めていきたいと考えたからである。今年度は、振り返り学習を扱った研修の2年目である。昨年度の研修の内容を生かし、より深まりのある研修にしていきたいと考えた。

2 実践例

実践 1

① 単元名「銀河不動産、地球引っ越し計画（人間は他の星に住むことができるのか）」（2年）

② 目 標

筆者の表現の工夫を捉え、自分の考えをまとめる

③ 校内研修とのかかわり

生徒に示すめあてを具体的なことにすることにより、振り返り学習もポイントを絞ってできるようにした。また、振り返りを自分の考えで終わらせるのではなく、次時にもつながるように筆者の考えと比較させた。

④ 展 開

過程	学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項
つかむ	○前時の学習について簡単に振り返る。	5	・シラバスを確認させる ・キーワードの大切さや筆者の考えについて簡単に確認する
	○本時のめあてを確認する。		
	物件に順番をつけよう。ただし根拠や理由を明確に！		
	○本時の学習の手順を知る（以上全体）		・手順は板書し、授業時間中にいつでも確認出来るようにする
解	○四つの星の例が挙げられている理由を考える（個人）	10	・ポイントを絞って考えるよう助言する。 ・根拠と理由の違いについて確認する。 ・考えるのは、根拠と理由のどちらでも良いことを伝える。
	○紹介されている順序の根拠と理由を考える。（個人）		

決 す る	○根拠や理由を話し合いながら、物件に順番をつける。(グループ) 《予想される生徒の反応》 ①ポイントがしぼれておらず、順序を付けることができない。 ②なんとなく順序を付けてはいるが、根拠や理由をはっきりと言うことができない。 ③根拠や理由を明確にして、順序をつけている。	25	- 各不動産会社の売りを元に、根拠や理由を考え順序をつけるよう助言する。 - 筆者の紹介の順と違って良いことを伝える。
			評価項目 ○おおむね満足 ◎十分満足 ○自分なりの根拠や理由をつけて、物件の順番について発言している（観察・話し合い） ◎筆者の意見と自分の意見を比較分析しながら、物件の順番について考え発言している。（観察・話し合い） 《 反応に対する支援》 「①の生徒に対して」 ・各不動産会社の売りをもう一度確認させる 「②の生徒に対して」 ・共通点や相違点を確認するよう助言する。 「③の生徒に対して」 ・筆者の意見との違いを考えてみるよう助言する。
ま と め る	○筆者の紹介している順序と自分たちが紹介したい順序の違いを考え、その理由を書く。【振り返り】（個人）	5	理由までが難しい生徒に関しては、違いだけ書いても良いことを伝える。
	○振り返りの発表を聞く ○本時のまとめと次時の予告を聞く。	5	- 指名する生徒は、2名程度を机間指導で選んで発表させる。 - より伝わりやすくするために、例示の順番も工夫できることを伝える。 - 次時は、プレゼンについて考えることを伝える。

実践 2

①単元名 「和歌の世界」

②目標

和歌の意味に注意して読み、作者の心情をとらえることができる。

③校内研修とのかかわり

本時は短歌に込められた作者の心情を読み取ることをねらいとしている。様々な立場（作者に対して書いたり、和歌に対する返事として書いたりするなど）から「手紙を書く」という振り返りを設定することで自己の読みを深めることができると考えた。

④展開

過程	学 習 活 動	時間	学習の支援及び留意事項	
つかむ	○シラバスを用いて、本時の活動と目標を確認する。	5	T1	T2
			・目標は板書し、授業時間中意識させる。	
	〈目標〉和歌から感じた自分の思いを伝え合おう			
深める	○前時を振り返り、和歌で詠まれている内容を思い返す。 →意味や表現、心情など	10	・前時の学習とのつながりを意識させる。 ・前時では恋愛の和歌に絞り、その中から印象に残ったものを選ばせておく	
	・自分がその和歌で語りたいポイントを絞る。 →前時のワークシートに記入したことから、何を話すか決める。良いと感じた点、共感できる点、反論したい点や恋愛の歌としてどうかといった考える視点を提示する。			
	○話し合いの中で自分が話すポイントを考える。必要があればワークシートに書き加える。	15	・同じ意見を見つけること、反対の意見になったもの、自分とは全く違う視点の意見などを確認する。 ・参考になった意見があれば随時ワークシートに書き加えていくようにさせる。	
○同じ和歌を選んだ人をグループにし、意見を交換する。 →語るポイントはどこなのか。 それに対してどう感じているのか。	《反応に対する支援》 T1 は主に話し合いが停滞している班を支援する T2 は主に深い話し合いに発展させられそうな班を支援する。			
	《予想される生徒の反応》 ①自分の考えがまとまらず、発表することができない。 ②発表をすることはできるが、他者の意見を自分の意見と比較できない。 ③自分の意見を伝えるとともに他者の意見を参考にできている。		T1 ①選んだ和歌から具体的に気に入った部分や良いと思ったところ（あるいは反論したいところ）を指摘させ、言葉を引き出していく。 ②他者の意見との共通点、相違点などに注目させ、和歌のとらえ方について議論できるようにする。	T2 ③発展的な質問を投げかけ、より話し合いが活発に行えるようにする。
	評価項目 ○おおむね満足 ◎十分満足 ○選んだ和歌から作者の心情を考え、自分の思いを言葉で表現している。 (話し合い・ワークシート) ◎選んだ和歌から作者の心情を具体的な言葉にし、自分の思いを言葉で表現している。 (話し合い・ワークシート)			

振 り 返 る	○話し合いの中で出た意見等を参考に作者へ向けて手紙を書く。 ○班の中で手紙を読み合う ○数名を指名し、書いた手紙を全体で共有する	1 0 5 5	・共感できた部分や良いと感じた点、反論などを作者に向けた手紙という形で表現することで、本時の自身の思考を振り返るようにさせる。また、話し合いによる考えの変容や新たな気づきなどにも目を向けさせる。

3 実践の成果

- 振り返り学習を序盤に取り入れた学習過程を展開したことで、この時間に身につけたい力がはっきりした。
- 単位時間ごとのつながりができた。身につけたことが活かしていけることで、次の活動の予想ができるようになった。
- 「手紙を書く」という振り返りの設定を工夫したことで活発な活動が見られた。

4 今後の課題

- 中間の振り返りは必要なかった。振り返りにはならず、主な学習活動であったので、今後は定義をはっきりさせて効果を見ていく必要がある。
- 振り返りの形としてグループでの話し合いなどもある。そのため、そういった話し合いのスキルなどの基本的事項を定着させていくことが課題である。
- グループでの振り返りのあと、全体に還す時間が短かった。振り返りの時間を十分確保する必要がある。

実践1

① 単元名 『産業の発達と幕府政治の動き』（2年）

② 目標 農業の進歩や諸産業の発達の様子を調べ、そのあらましを理解する。【思考・判断・表現】

③ 校内研修とのかかわり

この実践では、授業の終末に個人行おう振り返りをグループを活用した対話を通した振り返りを行う。自分自身の分かったこと、思ったこと、気づいたことを複数の人に伝え合うことで、授業内容の理解をより確かなものにし、理解が不十分な点を明らかにし、相互に補い合うことを目的としている。さらに、この活動を通して次時への課題を持たせたり、興味を高めたりしていきたい。

④ 授業の概要

学 習 活 動	時間	支援・指導上の留意点 ※努力を要する生徒への指導の手立て○おおむね満足した生徒への指導の手立て
1 本時の学習課題を知る。 学習課題 江戸時代には、どのような産業が発達したのでしょうか。	2	
2 農機具の名称を調べる。 ・ゆり板、千石どおし 唐箕、千歯こき、 竜骨車、備中鋏 3 たくさんの農機具が使われたのはなぜか考える。 ・農地面積が倍増している	13	・資料集を活用させ、江戸時代に登場した米作りに活用する農機具の名称を調べさせる。 ・スライドで答え合わせを行う。 ・たくさんの農機具が農業全書で紹介されたり、活用されるようになったりした理由を考えさせる。 ・江戸時代の100年間で耕地面積が2倍に増えたことを理解させる。 ・広がった農地を効率よく生産するために農機具が使われるようになった事を確認する。
4 様々な産業の様子について理解する。 ・商品作物について ・新しく行われるようになった産業	15	・広がった農地で米以外の商品作物が生産されるようになった様子や様々な産業についてをスライドで紹介する。 ・鉱山開発の結果金座で小判を銀座で銀貨を銭座で銅かを作成し、流通するようになった事実を伝える。通貨の流通が商品作物の生産を促したことを説明する。
5 日本地図に特産物をまとめる。 ・日本各地に特色ある特産物がある ・藩によって奨励されたものがある。		・教科書を参照させながら日本の各地でさかんになった産業について白地図を活用させてまとめさせる。 ・教科書資料の「南部鉄器のおこり」を読み、藩の奨励によって鉄器づくりがさかんになったという事実を確認させる。
6 特産物が各地でさかんに作られた理由を考える。 A：幕府や藩が奨励して特産物を生産させた。 B：自然環境に合った特産物を生産した。 C：特産物が作られるようになった理由が見当たらない。	10	諸産業が発達し、各地に特産物がみられるようになった理由を根拠をもって（◎幕府や藩の奨励と関連させて）考察しまとめている。 ・グループ活動では、司会・発表等役割分担をさせて行わせる。 ・考察した結果をホワイトボードに記入させ、黒板に貼らせる。 A：主導させた幕府や藩にとってのメリットは何かを考えさせて、奨励させた理由を考えさせる。 B：自然環境の他にはないかを教科書の記述を参考にさせて理由を考えさせる。 C：グループでの話し合いを参考にさせながら自然環境の他にも幕府や藩の政策で特産物がさかんになった事に気づかせる。
7 本時の学習を振り返る。 ・印象に残ったところ ・更に調べてみたいこと ・理解が不十分なところ ・感想を書く。	10	・グループで観点を絞って振り返りを行わせる。 ・グループで振り返ったことをもとに個人で感想を書かせる。

⑤ 実践を終えて

○ ICT を活用してクイズや資料を見せることで、生徒の興味を引きつけながら、江戸時代における特産物作りの様子や広がりを理解することができた。

○ グループで特産物が広がった理由を考察する場面では、映像資料等を活用しながら資料をもとに読み取り考えたことを、わかりやすく自分の言葉で表し、考察する事ができた。

○ グループでの振り返りが、本時の授業の理解のために有効に機能していた。しかし、グループでの振り返りの後に設けた個人の感想を書く場面は、不要ではなかったかという意見があり、活動内容を精選する必要がある。

実践3 数学科

1 ねらいにせまるための手立て

数学科では目指す生徒像を「主体的に学習に取り組み、既習の知識や考え方等を活用して、課題解決に取り組む生徒」とした。研修主題「基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成」を図るために、めあての提示の工夫と振り返り学習の効果的な活用の仕方に取り組んだ。

めあての提示

- ・本時の学習で身に付けさせたい力や考え方を意識した課題設定を行い、本時の学習課題を自分のものとし、解決の見通しをもつことができるようにする。
- ・課題解決に向けた数学的活動に取り組むために、生徒の気付きをもとにめあてを設定したり、生徒の活動の方向性が定まるよう具体的なめあての提示に努めたりした。

振り返り

- ・授業で学んだ用語や板書等のキーワードをもとにして、本時の学習過程や学習内容について自分でまとめ、表現する学習活動を振り返り学習とした。そのために、本時のねらいと関連のある振り返りを引き出す発問を工夫していく。

2 実践例

実践1

① 単元名 「関数 $y = ax^2$ 」 (3 学年)

② 目 標

具体的な事象の中から 2 つの数量 x と y を調べることで、 y が x の 2 乗に比例する関数になっているものを見い出すことができる。

③ 校内研修とのかかわり

本時の学習課題を自分のものとし、解決の見通しをもつことができるようにするために、本時のめあてを「比例、反比例、1 次関数の他に、どんな関数があるか調べてみよう。」と設定した。また、評価の観点に沿って板書にある用語や示されたキーワードをもとに自分の言葉で振り返り活動を行わせた。めあてをもとに、解決のための見通しをもち学習課題を把握させることによって、既習事項をもとに試行錯誤するなど、数学的活動に取り組み、課題解決を図らせた。

④ 授業の概要

これまで学習してきた関数について振り返りながら、関数 $y = ax^2$ について学ぶ。ICT を用いて具体的な事象を提示し、関数 $y = ax^2$ の特徴について考察していく。本時の振り返りによって、本時のねらいが達成できているかを見取るとともに、今後の学習を意欲的に進められるようにする。

○展開

学習活動	時間	学習活動の支援、指導上の留意点【T2 の動き】 ※努力を要する生徒への指導の手立て ○おおむね満足の生徒への指導の手立て
○関数、比例、反比例、1 次関数について復習する。 めあて：他に、どんな関数があるか調べてみよう。	10	・プリントを使用して、関数、比例、反比例、1 次関数について復習する。【プリントの掲示】 ・具体的な例を示しながら、比例、反比例、1 次関数について確認する。(比例：個数と代金 反比例：人数と仕事量 1 次関数：標高と気温)
○映像を見て、斜面を転がるボールの時間と距離の関係について考える。	20	・映像の状況を補足説明し、斜面を転がるボールのイメージを持たせる。【PC の操作】 ・2 通りの斜面を想定し、具体的なイメージを膨らませながら

○ x : 時間(秒)、 y : 距離(m)として、表を完成する。 ○ 表について考察し、気付いたことを発言しあい、2乗に比例する関数の特徴について理解する。 A : $y = a x^2$ の関係になっている。 B : x が2倍、3倍になると、y は 2^2倍、 3^2倍になる。 C : x が増加すると、y が増加する。		表に数値を入れさせ、x と y の関係を考察させる。【机間指導】  緩い坂 <table><tr><td>x</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>y</td><td>0</td><td>2</td><td>8</td><td>18</td><td>32</td></tr></table>  急な坂 <table><tr><td>x</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr><tr><td>y</td><td>0</td><td>4</td><td>16</td><td>36</td><td>64</td></tr></table> ・ x の値が2倍、3倍・・・と変化するときの y の値の変化の様子や x と y の値の関係について考えさせる。 A : x^2 と y を比べるために表を完成させ、x^2 と y の関係に気付くよう表の縦の関係に注目させる。 B : 比例などの関係と比べながらの差異を考えさせる。 C : 比例などの特徴を示し、表や式の特徴を考えさせる。 ・ 表を利用して $x = 10$ や $x = 50$ などのときの y の値を予測させ、x と y の関係を予測させる。		x	0	1	2	3	4	y	0	2	8	18	32	x	0	1	2	3	4	y	0	4	16	36	64
x	0	1	2	3	4																						
y	0	2	8	18	32																						
x	0	1	2	3	4																						
y	0	4	16	36	64																						
【観察・ワークシート、関心・意欲・態度】 2つの数量 x と y について、y が x の2乗に比例する関数になる関係を見出し、式で表そうとしている。		・ 「$y = a x^2$ の関係と表されるとき、y は x の2乗に比例する」「比例定数」の用語の意味を比例などと比較しながらまとめる。																									
○ 問2を解く。	10	・ 例題を通して、2乗に比例する関数の表し方、比例定数について確認してから、問2に取り組ませる。【机間指導】 ※図形についての問題なので、球積の公式や π の扱いを机間指導によって支援する。 ・ 身の回りには、2乗に比例する現象があり、そのことを知り、数学を利用していけるよう意欲づけを図る。(制動距離と速さなども紹介) ○ 問2が終わった生徒については、ワーク P48 をやらせる。																									
○ 振り返り	5	【生徒の記述内容をチェック】 新しい関数 $y = a x^2$ についてわかったことや今後どんなことを調べたいかまとめましょう。																									

⑤ 実践を終えて

- ねらいを達成するために、ワークシートにまとめたことや板書の内容をもとに振り返り学習を取り入れた。振り返りの時間が十分確保できるとよかった。
- 既習事項や本時で学んだ学習内容を黒板に整理し、振り返りのポイントを示すことで、生徒は自分の言葉で本時を振り返り、学習内容を確認することができた。
- 振り返りの時間を確保するために、追求場面を効率よく展開できるようICTの導入を進めていく。
- 一授業目では、ねらいを達せするためのめあてや課題設定の仕方を工夫し、生徒が主体的に授業に臨めるようにするの必要を感じた。二授業目では、見通しをもてるよう具体的なめあてを提示し、学習課題の解決に適した数学的活動に取り組ませることができた。

実践2

① 単元 図形の性質と合同 (第2学年)

② 目標

三角形の内角の和を用いて、多角形の内角の和の性質に気付くことができる。

③ 校内研修とのかかわり

本時の学習内容を既習事項を用いる事で、解決の見通しをもつことができるようにするために、本時のめあてを「三角形の内角の和を用いて」と設定した。また、グループでの活動を通して、評価の観点に沿って板書にある用語や示されたキーワードをもとに自分の言葉で振り返り活動を行わせた。

めあてをもとに、解決のための見通しをもち学習課題を把握させることによって、既習事項をもとに試行錯誤するなど、数学的活動に取り組み、課題解決を図らせた。

④ 授業の概要

これまで習った三角形の内角の和を利用して、多角形の内角の和がどのような法則があるかを個から少グループ、全体へと考える場を広げながら考えを深めていく。めあても振り返りとともに提示するのではなく活動を通して提示するタイミングを考える。生徒が振り返りをしやすいように板書の際や生徒からの発言からキーワードを拾いしっかりと提示するよう。

○ 展開

学習活動	時間	学習活動の支援、指導上の留意点【T2の動き】 ※努力を要する生徒への指導の手立て ○おおむね満足の生徒への指導の手立て																																
○三角形と四角形の内角の和を確認する。	5	・すでに小学校で学習している内容であるが、忘れてしまっている生徒もいるので再確認させる。																																
○正六角形をいくつか用意し、既習事項を用いて六角形の内角を考える。 	5	・自分の意見を相手に伝えることを意識させてノートに考え方を書かせる。 ・考えを書けた生徒には考え方のよさを褒め、別の方法も考えるように指示する。 ・つまづいている生徒には、四角形の内角の和を三角形に分割して説明したことをもう一度伝える。【机間指導】																																
めあて：多角形の内角の和を、三角形の内角の和が180°であることを利用して考えよう。																																		
○生徒に考えさせた中で三角形だけで表してある以下の2つを取り上げる。  ○今回は一つの頂点からひいた対角線によって三角形に分割するやり方で表をまとめることを提示し、四角形の場合を全体で確認後表を埋める。	16	・内部の点から頂点に線分をひき三角形に分けるやり方も正しいことを伝える。 ・やり方を理解していない生徒には表の下に用意した図形を用いて考えさせる。または支援を行う。【机間指導】 次の表は、右の図のように、多角形を1つの頂点からひいた対角線によって三角形に分け、内角の和を調べたものです。 同じように考えて、八角形までの表を完成させなさい。 <table><tr><th></th><th>四角形</th><th>五角形</th><th>六角形</th><th>七角形</th><th>八角形</th><th>...</th><th>n角形</th></tr><tr><td>辺の数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>...</td><td></td></tr><tr><td>三角形の数</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>...</td><td></td></tr><tr><td>内角の和</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>...</td><td></td></tr></table> 		四角形	五角形	六角形	七角形	八角形	...	n角形	辺の数						...		三角形の数						...		内角の和						...	
	四角形	五角形	六角形	七角形	八角形	...	n角形																											
辺の数						...																												
三角形の数						...																												
内角の和						...																												
○n角形のときの内角の表し方を考える。 	6	・小学校で「多角形の内角の和 = 180° × (辺の数-2)」を学習していることを確認する。 【見方・考え方】 ◎表を元に三角形の内角の和の性質を用いることで規則性があることに気づき、公式を導き出せる。 ○表から三角形を用いることに気づき、公式を導きだせる。																																

○多角形の内角の和の公式を確認する。 ○公式を求める上で、気がついたことを近くの生徒同士で話し合わせ、数人指名し発表する。 (振り返り)	8	・三角形でも成り立つことを確認しながらまとめる。 ・内側に窪んだ図形は多角形に含まないことを確認する。 ・その場で全体になげかけて公式で表すことで、nが大きな数字あっても公式を用いることですぐに計算しやすいことに気付かせる。
○十角形の内角の和を求める。	6	・公式を利用して解けているかを確認する。 ・解けていない、または公式を理解できていない生徒には三角形に分割したやり方からもう一度確認する。【机間指導】
○今日学んだ公式の振り返りと次回の学習内容の確認。	4	・次の時間に多角形の外角の性質を考えることを伝え、その際に内角の和を利用することも伝え次に繋がることを意識付ける。

⑤ 実践を終えて

- めあての提示を工夫することで、生徒が本時の内容に進んで取り組むことができた。また、グループでの交流で自分の考えを他者に伝え合い考えを深めることができていた。
- 既習事項や本時で学んだ学習内容を黒板に整理し、振り返りのポイントを示すことで、生徒は自分の言葉で本時を振り返り、学習内容を確認することができた。
- いくつか考え方が出たのを活かして、複数の考え方で考えさせ収束させていくとより効果的である。またTTをより活かした授業展開を考えていく。
- 口頭だけであると全員に伝わりづらいので記述での振り返りを検討する。また復習を兼ねて問題演習に取り組ませる時間を確保していく。

実践3

① 単元 平面図形（第1学年）

② 目 標

図形の移動の意味について理解し、平行移動、回転移動、対称移動を使って図形を移動したり、移動前と移動後の図形の関係について調べたりすることができる。

③ 校内研修とのかかわり

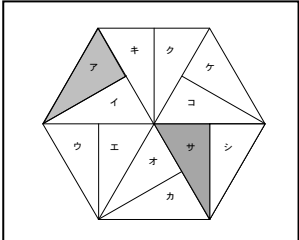
解決の見通しをもたせるために、既習内容から発展した内容をいかに納得させ意識付けるかを工夫した。具体的には、めあての提示のタイミングや文言をあえて途中で変化させることで前時の内容との変化を意識付けさせた。

振り返り活動については考え、記述し、声に出して、聞くことでより自分やクラスメイトの考えを深めることに繋がると考え実践した。授業の内容によっては演習をすることで深めていきたい。

④ 授業の概要

既習事項の図形の移動を利用し、二つの図形はどの移動を用いることで重ねることができるかを考えさせる。その上で、複数の移動方法を組み合わせることに気づかせる。複数考えさせることで移動の説明や概念に慣れさせることや、意見の違いに気付かせる。

○展開

学習活動	時間	学習活動の支援、指導上の留意点 ※努力を要する生徒への指導の手立て ○おおむね満足の生徒への指導の手立て
○図形の移動には平行移動、回転移動、対称移動の3種類があったことを復習する。	10	・平行移動は「ずらす」、回転移動は「まわす」、対称移動は「裏返す」ものだったということを意識させる。
＜問題＞12個の合同な直角三角形で敷き詰められた正六角形がある。 直角三角形アが直角三角形サに重なるような図形の移動方法を考えましょう。 		
めあて 2つの図形をぴったりと重ねるための図形の移動方法を何通りか考えよう		
○まず3つの移動方法の1つだけで直角三角形アがどの図形に重なるか考える。 1、 平行移動 だけで動かすことのできる図形を考える。 2、 回転移動 3、 対称移動 についても同様に行う。	5	・めあてについては生徒の気づきを活かして設定する。 ・既習内容を再確認させるため、1つの移動方法を考えさせる。 ・それぞれの移動先を確認した後に、複数回の移動を行うことで直角三角形アが直角三角形サに重なるということを引き出す。
○個別に問題解決に取り組む。 予想される生徒の反応 C、一組も見つけれない。 B、何組も見つけることができる。 A、何組も見つけることができ、用語を使って説明することができる。 ○考え方をペアになり説明し合う。	10	・移動方法を明確にさせながら取り組ませる。 予想される生徒への手立て C、既習事項とともに確認した直角三角形アから移動した図形からは、どこの直角三角形に移動するかをひとつひとつ確認し直角三角形サへ近づけていけるようにする。 B、回転の中心や対称の軸などの用語を確認しながら説明できるよう助言する。 A、全ての移動方法を使用するなどの条件を与え難易度をあげたり、他者の説明に対して助言ができるようにするな ・考えを交流させると同時に、違う手順でも移動させることができると気付かせる。

○4人グループになり交流する。	15	【観察・ワークシート、見方や考え方】 ○：3種類の移動の組み合わせによって、図形をいろいろな位置に移動できることを理解し、移動の手順を見つけ出すことができる。 ◎：3種類の移動の組み合わせによって、図形をいろいろな位置に移動できることを理解し、移動の手順を複数見つけ出すことができる。 ○よりよい説明ができた人を決め、その説明の仕方を班の全員ができるようにする。 ○自分の思いつかなかった考え方についてはメモをとるなどして改めて考えるよう促す。
○代表を決め発表させる。		
		
○振り返り	10	【生徒の記述内容をチェック】 今日の授業で新しく学んだことや、友達の発表を聞いて参考になったことを書きましょう。

⑤ 実践を終えて

- ねらいの提示を工夫することで、既習内容を組み合わせる発展的な内容を理解し、意欲的に複数の考え方に迫ることができた。
- 図形の移動を捉えるために付録を活用することで、発表の際に滞りなく他者に自分の考えを伝えることに役立つことができた。
- 記述による振り返り活動をさせることで、自分の考えを再認識し学習内容を確認することができた。
- グループ活動の話し合いの視点が広すぎて收拾をつけるのに時間を要し、振り返りの時間が十分に確保できなかった。

3 実践の成果

○めあてを提示するタイミング、めあてに使う文言の精選、めあてに生徒の気付きを取り入れる等、めあての提示の仕方を工夫をすることで、生徒は本時の課題を自分のものにできることが再確認できた。生徒は課題を自分のものとする中で、解決の見通しをもて、既習事項をもとに試行錯誤したりグループで積極的に意見交換したりすることができていた。

○振り返りの時間を授業に位置づけることで、本時で身に付けさせたい力や考え方を意識した課題設定に取り組むことができた。振り返りの時間を積み重ねることで、知識の定着が図られ生徒が自信を持って活動できるようにしていくので、効果的な振り返りができるよう今後も研修をしていきたい。

4 今後の課題

○めあてを工夫して提示したことで、生徒は目的意識をもって課題に取り組んだが、めあてを達成するための指導内容の工夫や効果的な話し合い活動などについて、更なる工夫・改善が必要である。

○振り返りについては、評価問題を解くことも含めて行い、生徒自身が本時の学習で何がわかったか、今後どのように学んで行きたいかなどを実感できる時間としたい。振り返りの時間が十分に確保できないことが多かったので、日々の授業における振り返り学習を充実していきたい。

○自分の言葉で行う振り返りを通して、より発展的な学習への取り組みを促し、数学を活用することのよさや自主的、自発的な学習の促進を図りたい。

実践1 理科

1 ねらいに迫るための手立て

理科部会では目指す生徒像を「自分の考えをもって人に伝えたり、友達の考えを聞いて比較したりしながら、自分の考えを深めていくことのできる生徒」と設定した。また、振り返り学習については「事象や現象を自らの言葉で表現する学習」と定義した。理科が対象とする言語には、科学用語、概念を説明する言葉、化学式やモデル、表やグラフなどがあげられる。「言語」を駆使しながら互いに意見交換し、自らの考えを深めていけるような場面を設定していくことで、学習内容に対する理解が一層深まるであろうと考えた。特に、授業終末部分での振り返り学習については、学習してきた内容を自らの言葉でまとめることでその内容をより深く理解することができ、基礎基本の定着にもつながると考える。

2 実践例

実践1

① 単元名 1年 『光合成で使われるもの』 植物の世界 葉のつくりとはたらき

② 目標 実験を通していくつかの条件から光合成と二酸化炭素の関係を見だし、まとめる。

③ 校内研修とのかかわり

この実践では、光合成で使われるものが何か、条件を変えた試験管の中にタンポポの葉を入れて、比較実験をすることで二酸化炭素を使うことを見いだすことを目標としている。振り返り活動として、二酸化炭素と光合成の関係を自分の言葉でまとめることで、科学的な見方ができたと考えることができる。

④ 授業の概要

学 習 活 動	時間	学習活動の支援、指導上の留意点 ※努力を要する生徒への指導の手立て ○おおむね満足の生徒への指導の手立て
・めあてが「実験を通していくつかの条件から光合成と二酸化炭素の関係を確かめる」ということを確認する。 ・実験の確認を行う。	5	・教科書P37の実験を事前に行っておく。3本の試験管にそれぞれ息を吹き込み、A：タンポポの葉を入れる、B：タンポポの葉を入れ、アルミ箔で光を遮断する、C：何も入れない、を作り、日光に十分に当てておく。 ・本実験が対照実験であることに触れておく。また、整理しやすいよう表を提示する。
・A～Cの二酸化炭素の変化についてそれぞれ考える。 ・A、Bの試験管の比較とA、Cの試験管の比較をすることで何が分かるか考える。 ・今までの考えをもとに結果を予想し、発表する。 ①予想が書けない ②AとBには葉があるので二酸化炭素が無くなる ③Aからは二酸化炭素が出ない	20	・Aの試験管に二酸化炭素がある場合は光を当てても変化がない、無い場合は光を当てて二酸化炭素が無くなった、などそれぞれの試験管で考えさせる。 ・A、Bの試験管で光の有無を、A、Cの試験管で植物の有無を比較することを確認する。 ・個人の予想を書き、発表していく。 ※1 植物が二酸化炭素を吸収することを思い出させる。 ※1 既習事項をもう一度確認させる。 ○2 A～Cそれぞれの試験管の条件を確認させる。 ○2 A～Cを比較してわかることを整理させる。 ○3 二酸化炭素が出ないと考えた根拠を書くよう促す。 ○光が当たると二酸化炭素が吸収されることをまとめることができる。(◎理由を明らかにして)
・日光に当てた3本の試験管に	10	・各グループで確認後、全体で結果を共有する。

それぞれ石灰水を入れる操作を行い結果を求める。		
・考察を実験プリントにまとめ発表する。 ①Aの試験管は石灰水が濁らなかった ②Aからは二酸化炭素が無くなった ③Aの試験管は日光を葉が受けたことにより光合成が起こり、二酸化炭素が使われた	10	・予想で用いた紙を効果的に利用できるよう紹介をする。 ※1 二酸化炭素の性質と、植物が使うことを確認し、そこから考えられるよう促す。 ※1 Aの試験管の中の変化を考えさせる。 ○2 二酸化炭素が移動した場所や、その理由を考えるよう促す。 ○3 他の試験管との関連性を考えるよう促す。 ○光が当たると二酸化炭素が吸収されることをまとめることができる。(◎理由を明らかにして)
・本時に明らかになったことを振り返りとして付箋紙に書く。	5	・簡単にまとめられるよう促す。

⑤ 実践を終えて

振り返り学習として、付箋を活用したことは、同様の授業を重ねていくと単元の振り返りにもつながるので授業のつながりを意識させるためにもよかった。振り返らせた付箋は、全体を復習するときや次の単元を学習するときに見直している生徒が多く見られたことから、生徒が付箋にまとめたという実感をもって使っていることが分かる。ただ、生徒は光合成よりも二酸化炭素が無くなったことに着目していた。光合成との関係について着目している生徒が少なかったことから、実験前後の確認の時間があるとよかった。また、振り返りの場面で何を書かせたいのかを授業づくりのはじめに明確にしておき、そこから展開を考えるとよかった。2つめの実践では、ねらいと評価、振り返りに一貫性があるよう授業を計画し、光の屈折についての実践を行った。「光が透明な物体を進むときの規則性を見つける」ことをねらいとし、実験を行い、まとめをした。ほとんどの生徒が規則性を見いだすことができた。しかし、生徒に着目させるべき角度をあらかじめ書かせておくなど、指導者側の手立てについて課題が残った。

実践2

①単元名 3年 『酸、アルカリとイオン』 中和

②目標 塩酸と水酸化ナトリウムを中和する実験を通して、中和は酸性とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせることで、中性は酸性とアルカリ性の性質がなくなることを区別して説明できる。

③校内研修とのかかわり

塩酸と水酸化ナトリウムを中和する実験の結果から、中和がどのような現象であるかを考えさせ、自分の言葉でまとめる活動を行う。最終的に自分の言葉でまとめる活動で、授業全体の内容を振り返ることができるようにする。

④授業の概要

学習活動	時間	支援・指導上の留意点 ※努力を要する生徒への指導の手だて ○おおむね満足の生徒への指導の手だて
前時の学習内容を確認する。	3	・酸には水素イオンが、アルカリには水酸化物イオンがあることを確認する。
B T B 溶液で黄色にした酸と青	7	・次の3つから選択させ、理由をかかせる。

色にしたアルカリの水溶液を混ぜるとどうなるか、予想する。		ア 両方の性質を示す水溶液ができる イ 両方の性質が表れない水溶液になる ウ ただの水になる ・ 3つの選択肢のどの場合でも、両方を均等に混ぜるとB T B溶液は緑になることを説明する。 ・ 酸性、アルカリ性をそれぞれ別に調べるために、リトマス紙を使うことを説明する。
実験を通して中和と中性の違いを考えよう		
水溶液を混ぜて緑色にする。	1 5	・ 正しく操作できているか巡視し、支援が必要な場合は助言する。
リトマス紙につけて調べる。	5	・ 残った液体はスライドガラスに一滴取り、次回に観察することを説明する。 ・ リトマス紙で中性を確かめることは難しいので、教師による演示で確かめる。このとき、 酸性、アルカリ性のどちらの性質も示さない状態を中性ということを確認する ・ 残った液体は決められた所に集めるよう指示する。
水溶液中のイオンがどうなったかを考える。 中和と中性の違いについて説明を聞く。	1 0	・ 酸性の液体とアルカリ性の液体を混ぜるとどうなるか考えさせ、それが中和だと確認する。 ここでは全体で確認する。 ・ 図を使って説明する時は、水素イオンと水酸化物イオンによる中和を中心に考えさせ、塩の生成については次の授業で扱うこととする。

⑤実践を終えて

実験の結果から考察する活動であったが、2人での実験だったこともあり、振り返りまで積極的に活動することができていた。また、実験操作についても全員が参加することができ、少人数実験での効果が見られた。授業展開については、ねらいである「中和と中性の違いを見る」ことをはっきりと生徒に伝えきれなかったのも、振り返りの活動へのつながりがなくなってしまったことがあった。また、中性についてのイメージをつかみきれない生徒も見られたので、ねらいを中和だけにしぼって考えさせる方が理解しやすかったとも考えらる。いずれにしても、効果的な振り返りを行うためには、十分にねらいを吟味し、それを生徒にしっかりと明示して、見通しをもたせる必要があることが分かった。

3 実践の成果

○振り返りを重ねていくことで、生徒は自分の言葉でまとめたものを使って復習をすることが増えた。単元を通して振り返りの定型を作ることは、生徒にとって習慣づけにもなった。

○

4 今後の課題

○めあてに示すことは、振り返りの場面で大きく影響することが分かった。評価項目に沿って、生徒が振り返りに書くことをあらかじめ教師側で考えて予想しておき、それをもとに授業の内容やめあてを作っていく構成力が必要であることが分かった。今後は授業検討会でこれらの視点を元に授業づくりをしていけば良いことが分かった。また、一授業だけで無く、単元全体を見通した生徒の姿や身に付けさせたい力を明らかにしていくことが、より必要となることも明らかになった。

実践5 英語科

1 ねらいに迫るための手立て

今年度の研修主題である「基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成～見通しを持たせる授業の「ねらい」づくりと振り返り学習を通して～」に向けて、下記の学習活動を英語科の振り返り学習と捉えて研修に取り組んできた。

本校校内研修における英語科での「ねらい」づくりと「振り返り学習」を以下に示す。

<英語科 ねらい、振り返り学習>

- ①新出言語材料を用いて、数文で自分の伝えたい事を相手と伝え合う活動
- ②単元を貫いたゴールに当たる言語活動において、既習事項を用いて、自分の伝えたいことを相手と伝え合う活動
- ③ゴールに当たる活動の終末部分において、シラバスで提示した「ねらい」に沿って、授業を通してできるようになったことなどについて振り返り、自分の言葉でまとめる活動

①～③の学習を継続的に行うことで、生徒は基礎的・基本的な内容を身に付け、さらに毎時間の学習の意味や現在の習得状況を確認でき、意欲と自信をもって学習に臨むであろうと考えた。

2 実践例

【実践例1】

① 本時の目標

一般動詞の三人称単数現在形の用法を理解し、第三者について表現したり、相手の伝えようとする事柄を理解したりする。

② 伸ばしたい資質や能力

○目的格の人称代名詞について正しく理解し、用いることができる。

③ 準備 教師：教科書、芸能人の写真、ワークシート

生徒：教科書、ノート、ファイル、好きな芸能人の写真

VII 本時の学習（本時は全9時間中の7時間目）

（1）ねらい

一般動詞の三人称単数現在を用いて、「私たちの先生を紹介する」原稿を英語で書いて表現できる。

（2）準備 ピクチャーカード シラバス 帯学習シート 学習プリント 先生方へのアンケート

（3）本時

学習活動	時間	指導上の留意点及び支援・評価 (※努力を要する生徒への指導 ○概ね満足の生徒への指導)
1. 挨拶・ウォーミングアップ ①英語で挨拶をする。 ②基本動詞の口頭練習をする。	5	・生徒の英語学習への意欲を喚起するために、英語であいさつをさせる。 ・本時の学習で、おもに使う一般動詞を確認させるために、口頭で練習させる。 < like play have eat watch listen study >
2. 帯学習（即興的に口頭	5	

で英語を表現する活動 4)		
①ペアによる即興的なコミュニケーション活動を行う。		・三人称単数現在を用いた表現を、口頭表現できるようにペアによる会話練習をさせる。 ・うまく表現することができない生徒は、帯学習シートに記載されている例文を用いて表現させる。
②自己評価をシートに記入する。		・自己評価を記入することで、口頭練習の成果や課題の発見をさせ、次の学習への主体性や意欲を高めさせる。
3. 事前に行った「先生方への質問」アンケートから、英語で学習プリントに「私たちの先生を紹介する」原稿を英語で書く。	15	・アンケートをもとに、自分が紹介する先生について、学習プリントに英語で書いて表現させる。(ここで使う文は、三人称“He/She~”で始まる文とする。) ・生徒が英作文をするとき、語のヒントとなるようにウォーミングアップで使用した単語は黒板に掲示したままにする。 ・生徒が英作文をするとき、英語でどのように表現するかわからない単語について、何とか他の表現を探すことを支援する。さらに、やむを得ない表現については日本語での表現を使わせる。
A：英語で文をまったく書くことができない。		※A：黒板に貼ってある単語を利用しながら、主語がHeあるいはSheから文を書き始めることに気づかせる。さらに、三人称単数現在形について基礎・基本となる知識を確認しながら、表現できるように支援する。
B：英語で文を書く時、例示してある一般動詞の三人称単数現在形を使うことができない。		※B：主語が三人称単数現在形の時、動詞に“-s”がつくことを助言し、三人称単数現在形を使えるように支援する。
C：英語で文を書く時、例示してある一般動詞の三人称単数現在形を使うことができる。		○C：三人称単数現在を用いて、例示してある単語を用いながら自分が伝えたい事柄について表現する。さらに他の語彙などを利用してより豊かに表現できるように助言する。
D：英語で文を書く時、例示してある一般動詞以外の動詞や、修飾語などを加えてより豊かな表現をすることができる。		D：相手にわかりやすい文を書くなど、工夫しながらより豊かに表現できるように励ます。
4. 学習グループを作り、個人で作成した原稿を見合う。	15	
①学習グループ(3～4人)を作り、お互いの原稿を読		・生徒がよりよい英語での表現ができるように、生徒同士がお互いに原稿を読みあい、気づいたことなどを伝え合いながら、自分の書いた文を見直させる。

み合う。 ②交流の中で学んだことを いかして、再び個の原稿を 書く学習をおこなう。 ③クラス全体で交流をする。		・交流の中で学んだことを、自分の文として使うにはどうすればよいかを投げかけ、生徒に原稿を書かせる。 ・クラス全体で交流をさせながら、英語で表現することの楽しさを感じさせる。
5. 本時の学習を振り返る。 できるようになったこと、 難しかったことなどについて書く。	10	・シラバスの振り返り欄に、本時の学習を振り返る文を書かせる。 ・生徒が具体的に自分のできるようになったこと、難しかったこと等を書けるように説明をする。 ・振り返りについて数人の生徒に発表させ、個の学びの共有をする。

⑤ 実践を終えて

本時は、生徒が自分の身近な存在である先生方にアンケートをとり、その先生について英作文を行うものであったが、生徒の作成した文は全員が5文以上の量を書くことができた。内容は三人称を用いて、「～がすきである」「～をする」など基本的な文章に加えて、生徒の個性的な表現を「～がしたい」等、表現の幅広い表現をしている生徒が多数見られた。学習低位の生徒へは、ピアサポートや教師の机間巡視での支援、ヒントカードなどを利用しての活動であったが、生徒が英語を書いて表現する量は確保できたと考えている。また、上位の生徒については、自分が聞いてみたい事柄や趣味に関連したことを話題にしたりと広がりのある表現活動をすることができ、振り返りの評価では、肯定的な意見が書かれていた。

実践2

① 題材名 NEW HORIZON Course 2 Unit 3-3

② 伸ばしたい資質や能力

不定詞の形容詞的用法について正しく理解し、用いることができる。

③ 本時の目標 (全10時間の5時間目)

不定詞(形容詞的用法)の用法を知り、それを用いてエリン先生に沼田でお勧めの場所について表現することができる。

準備 教師：教科書、キーセンテンスカード、クイズ用カード、ワークシート、

生徒：教科書、ノート、ファイル、生徒用シラバス

③ 展開

学習内容	時間	支援・指導上の留意点	
		T1	T2
・ Greeting ・ Warm-up 1	5	・ 生徒に既習の質問をし、答えられたらノートにその文を書くよう指示。	・ 生徒が正しい発音をして、かつ正しく答えられるよう支援する。
・ Warm-up 2	5	・ 既習のキーセンテンスを繰り返し、口頭表現させることで定着につなげる。	
・ 新出言語材料導入	10	・ T2 との会話の中でキーセンテンス、 Juo Park is a good <u>place</u> to see	・ T1 とロールプレイ。

・本時のめあて確認		sakura.の不定詞・形容詞的用法を知らせ、ノートに書かせる。	
・新出言語材料を用いた口頭練習①	10	・教師が示す場所について、 _____ is a good place to ~の文の作り方を練習する。その後、教師が示す場所について文を作り、各列ごとにポイント制でチーム戦をする。	・下位群支援。
・新出言語材料を用いた口頭練習②	10	・グループごとに場所の書かれたカードを用い、その場所がどんなことをするのに良い場所かを口頭練習させ語順を定着させる。 ・班対抗のポイント制とし、全員で協力し、楽しく取り組ませるようにする。	
・ワークシートを使って、エリン先生におすすめの場所を紹介する文を書く。	10	・自分の紹介したい沼田でのおすすめの場所を書き、表現の幅を広げさせる。	・下位群支援。
・本時の振り返り	3	・ねらいに沿って、本時の学習内容を振り返らせる。	

⑤ 実践を終えて

○本時は、不定詞の形容詞的用法（～するための）の学習1時間目であったが、**場所** は～するの
良い場所だというキーセンテンスをゲームを用いながら導入したことで、生徒の関心を高められた。
生徒が文を作りやすいよう、提示する場所についても工夫した。また、繰り返し口頭練習したことは、
生徒が「ALTに沼田でお勧めの場所を紹介しよう」というねらいに沿った振り返りをするのに、有効であったと思える。

○個人としての振り返りでは、多くの生徒が5文以上の英文を作れており、ねらいの達成はおおむね満足と言えるが、個人の振り返りだけではなく、グループ活動を用いた全体の振り返り活動など、学びの共有の場を設けられたらよかった。

実践3

① 単元名 「なりきりスピーチをしよう」（3年）

② 目標

It's ... for - to ~ , ② how to ~ , ③ ask ... to ~ 等を用いて、ある人物になりきって、自分を紹介するスピーチができる。

③ 校内研修との関わり

本実践では、単元のゴールを「なりきりスピーチ」の発表に設定し、そのシラバスに沿って授業の初めには本時のゴールの確認、まとめに振り返り活動を日本語で行った。また、平行して新言語材料を用いた作文活動や言語活動を継続的・計画的に行い、自己変容等の確認もした。

これらを通して、生徒が主体的に学習に取り組み、基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒の育成を目指した。

④ 授業の概要

○本時の目標（全10時間の1時間目）

○ **It's ~ for A to ...** の用法を知り、それを用いて自分のことやなりきるキャラクターにとって、楽しいこと、簡単なことなど口頭表現することができる。

学 習 活 動	時 間	支援・指導上の留意点	
		T 1	T 2
1 あいさつ	2	・友達3人に、あいさつとQ Aをするように指示。	・下位群支援。
2 ウォームアップ1・2	5	・クラスの半分の生徒に、既習の質問をし、答えられたら座るように指示。 ・既習のキーセンテンスカードを見せ、口頭表現するペアゲーム。	・クラスの半分の生徒に質問する。 ・下位群支援。
3 本時のねらい確認	7	・シラバスとT 2のなりきりスピーチから、本単元のゴールを知らせる。 ・ It's ... for - to ~. 導入。T 2との対話内容をジェスチャーなどをヒントにしながら推測させて、キーセンテンスを理解させる。 ・ 本日のめあて「(Aにとって・・・することは～だ。)を使って、考えを口頭で伝えることができる」と本時のゴールを確認させる。	・なりきりスピーチの例を見せる。
4 新言語材料の確認と練習	1 3	・文構造を説明し、ノートに書かせる。 <u>It's easy for me to cook nikujaga.</u> ・ easy,fun,difficult などの形容詞のカードを見ながらキーセンテンスの口頭練習をする。【習得のための言語活動】 ・ easy,fun,difficult などの形容詞のカードを使い自分のことについて口頭表現する爆弾ゲームを行わせることで、口頭表現になれさせる。 【自分の考えを表現する言語活動】 ・ 全員が楽しく参加できるように、始める前に十分に口頭練習を行う。	・一緒に参加しながら、下位群を支援する。
5 新言語材料を使ったグループ練習 (カードゲーム)	1 0	・なりきりスピーチに向けて、各班に置かれた小カードにある有名な人の名前を見て、その人にとって楽しいこと、簡単なことなどについて、 It's ... for - to ~. と表現する練習をさせる。【習得のための言語活動】 ・班対抗で、ポイントを競わせることで、楽しく取り組めるようにする。(クリアした1カード=1ポイント) ・否定文についても紹介し、使えるようにする。 ・ゲーム開始前に十分口頭表現をさせること、グループ内で協力させることで、全員が自信をもって参加できるようにする。 ○例文を見ながら、It's ... for - to ~.を使った口頭表現ができる。 ◎例文を見ずに、いろいろな動詞を使い、It's ... for - to ~.を使った口頭表現ができる。 (観察)【表現の能力】	・各グループの進行支援。 ・下位群支援。
【予想される生徒の反応とその支援】 ①反応 A : 英文を言えない。→ 例文を見ながら言えるように、個別に個別する。 ②反応 B : 例文を見ながら英文を言える。 → 例文を見ずに、言えるように助言する。 ③反応 C : 例文を見ずに言える。 → 例以外の形容詞や動詞を使って表現できるように助言する。。			

6 新言語材料を使ったワークシート	10	・ワークシートを用いて新言語材料の用法の確認をさせる。 ・ワークシートの最後に自分について、楽しいこと、簡単なことについての自己表現をさせる。	・下位群支援。
7 振り返り 家庭学習とのリンク	3	・楽しい表現やなるほど、という表現をクラスに紹介させることで、本人に自信を持たせるとともに、他の表現の幅を広げる。 ・生徒用シラバスに、自己評価をさせる。 ・本時の学習内容を振り返らせ、自分にとって～なことの文ノートにを2つ書いてくるように伝える。	

⑤ 実践を終えて

○最初に単元のゴールをシラバスで提示し、毎時間それに向けた本時のゴールを示して学習に取り組ませることは、生徒の主体的な学習につながった。生徒の実態にあった、より必然性があるゴール設定を目指したい。

○1授業目では、生徒へ提示したねらいが「～を言えるようにする」「～を書けるようにする」と一致していない箇所があった。それを踏まえ、ねらいと評価、振り返りにしっかりと一貫性があるように、教師自身がしっかりと確認、イメージして取り組むようにした。

○英語科において、日本語での振り返りは取り組みにくい感もあったが、本年度の研修を通して、友達の表現に学ぶことや学んだことを生かして今後表現してみたいことなど、日本語で確認することの意義を感じることができた。

3 成果

今年度の研修主題である「基礎的・基本的な内容を身に付けた生徒の育成 ～見通しを持たせる授業の「ねらい」づくりと振り返り学習を通して～」に向けて、下記の3つの柱のもと、研修に取り組んできた。①「新出言語材料を用いて、数文で自分の伝えたい事を相手と伝え合う活動」では、新出での学習内容を表現活動において利用することで、振り返り学習としてうまく利用しながら自らが表現することができた。②「単元を貫いたゴールに当たる言語活動において、既習事項を用いて、自分の伝えたいことを相手と伝え合う活動」では、単元を通して身につけた表現を利用しながら繰り返し表現することができた。③「ゴールに当たる活動の終末部分において、シラバスで提示した「ねらい」に沿って、授業を通してできるようになったことなどについて振り返り、自分の言葉でまとめる活動」では、学習の見通しをシラバスによって示すことで、新出言語材料をしっかりと把握し、学習の計画を立てる琴を役立てることができた。上記①～③の学習を継続的に行うことで、生徒は基礎的・基本的な内容を身に付け、さらに毎時間の学習の意味や現在の習得状況を確認でき、意欲と自信をもって学習に臨むであろうと考えた。

4 課題

- ・生徒にとって身近で、より魅力的な学習内容精選
- ・振り返り学習②において、その時々の実態にあったより魅力的で必然的な単元のゴール設定
- ・シラバスの作成継続・内容改善やシラバスのファイリング・英語部会内での共有
- ・Can-Doリストの活用
- ・小学校との連携

実践6 音楽科

1 ねらいに迫るための手立て

音楽科では鑑賞活動において、曲から感じ取ったことやイメージしたことを文字や言葉で伝えることができる力、さらに、感じ取ったことを音楽の諸要素と関連付けさせながら考えることのできる力を付けていきたいと考える。生徒たちが楽曲に興味をもち、意欲的に作曲者の人生と音楽をとらえることができるよう、視聴覚教材（DVD・CD・ピアノ演奏）の提示の仕方や配布資料を工夫することにより、名曲の旋律に慣れ親しみ、音楽に対する深い思いを追求させたい。

【めあての提示】

めあての提示は、導入後に行うことが多い。導入では、本時の課題追求の手がかりとなる教材を視聴させることによって、音楽に対する興味・関心を高めさせたい。ワークシートを使用し、見通しをもたせながら取り組ませたい。

【振り返り】

本時における学習の振り返りとして授業の終末に行う。学習カードを利用して、自己評価・学習内容の確認・次時への課題を記入させている。

2 実践例

実践1

① 題材名 ベートーヴェンの人生と音楽（2年）

教材名 「交響曲第9番」・「交響曲第5番」

② 目 標 ベートーヴェンの生き方や考え方を知り、音楽に対する深い思いを探ろう。

③ 校内研修とのかかわり

本時の学習追求の手がかりになる曲を試聴し、授業に対する興味・関心を引き出す。その後、めあてや学習の流れを示すことで見通しをもたせ、本時の基本的な学びである作曲者の生き方を知ることにより、名曲を聴き作曲者の音楽に対する思いを追求する時間を十分に確保している。自分の思いや考えを伝え合う場面を設けることにより、作曲者の生き方や考え方を知り、自分の感じ方を広げることができる。そのため、本時の学習内容を振り返るとともに仲間と考えを共有する喜びを味わわせることができるものとする。

④ 授業の概要

（1）学級 2年1組（男19 女13 計32）

（2）本時の展開

学習活動	時間	支援および指導上の留意点
【つかむ】 ○「交響曲第9番」のDVDを鑑賞する ○作曲者を知る 「ベートーヴェンと言えば・・・連想することは何でしょう？」	10分	○映像だけを鑑賞させ、音声を出さないで提示する。 ○長野冬季オリンピックで世界6大陸同時生中継されたことを説明する。 ○作曲者の肖像画を掲示し、作曲者を理解させる。 ○ベートーヴェンから連想することをワークシートに書かせる。
○本時の学習課題を知る		○本時の学習のめあてをワークシートに記入させる
めあて：ベートーヴェンの生き方や考え方を知り、音楽に対する思いを探ろう。		
【追求する】 ○「運命を乗り越えて」・「遺書」を読む ○ベートーヴェンの生き方を知る ○ベートーヴェンの生き方について考える	10分	○「運命を乗り越えて」・「遺書」を読んでベートーヴェンの生き方について知り、自分なりの考えをワークシートに書かせる。

○ベートーヴェンの名曲を聴く 「エリーゼのために」「月光」「熱情」 「交響曲第3番英雄／第6番田園」	20分	○名曲を聴かせることにより、ベートーヴェンの音楽に対する深い思いを追求させる。 ○生徒個々の思いや考えを発表し、共有させる。
【ふりかえり】 ○「第九」に挑戦する。 ○学習プリントの記入をする ■自己評価 ■わかったこと ■知りたいこと ○次の時間の学習内容を知る 「交響曲第5番ハ短調」	10分	◆評価項目【音楽への関心・意欲・態度】 ○作曲者に興味・関心をもち、生き方や音楽に対する思いについて考えることができた。 ◎作曲者に興味・関心をもち、行き方や音楽に対する深い思いについて、意欲的に追求することができた。 (観察・ワークシート) ○自己評価・わかったこと・知りたいことを記入させる ◎とてもよくできた ○できた △少しできた ×できない ○作曲者に対する関心を一層高めるようにさせる。

⑤ 実践を終えて

導入場面で、視覚的な教材である「第九」のオリンピック版を取り入れたことは一人の作曲家に興味関心を高めるために有効であった。ワークシートは、本時の見通しを持たせるために有効であった。課題は、振り返りの時間確保とまとめの方法・記述して欲しい内容を明らかにしておくことである。

実践2

① 題材名 箏（そう）に親しもう（1年）

教材名 「さくらさくら」

② 目標 奏法を知り、弦番号を唱えながら「さくらさくら」を練習しよう。

③ 校内研修とのかかわり

一授業目で、振り返りの時間確保が課題であったため、10分間時間を確保するように計画した。自己評価項目を本時の学びの奏法についての5つのポイントに絞り、振り返りで記述して欲しい内容を予め準備しておいた。（姿勢・爪のあて方・薬指の支え・音色・弦番号について）

④ 授業の概要

【導入】ワークシートを活用、前時の復習（平調子）をする

【追求】本時のめあてを記入させ、奏法についてのポイントを学ぶ。一斉にさくらの弦番号を唱える。

練習①ペアで交代しながら一弦→巾・巾→一弦 練習②「さくらさくら」の練習をする

【振り返り】まとめの演奏後、自己評価（5項目）と本時の学習についての振り返りを記入するとともに、発表する

⑤ 実践を終えて

奏法についてポイントをおさえた教え込みが適確であった。一音一音いい音色で箏を弾きたいという気持ちを高めさせ、学びに向かう姿勢がとても良かった。ペアでアドバイスしながら練習できていた。

3 実践の成果

鑑賞の活動では、ICTの活用から生徒の興味関心を高めることができた。また、1年次に学習した道徳とも関連付けながら作曲の生き方について追求させることができた。お互いに意見交流する場面を設定したことによって、生徒が楽しみながらねらいを追求している姿が見られた。

表現の活動では、一人一人の箏に対する関心は高まり、めあては、おおむね達成することができた。弦番号を唱えながら演奏することができた生徒が多く、めあてに沿った振り返りができるようになった。

4 今後の課題

本時の展開において、教師が導入・追求でこれだけは生徒に身に付けさせたいという明確なポイントをもっていることが大切である。ねらいについては、ある程度焦点化すると分かりやすい。また、振り返りについては必ず十分な時間を確保することが必要である。

実践7 保健体育

1 ねらいに迫るための手立て

保健体育科では、学習カードや学習プリントを「振り返り学習」に利用している。その主な目的は、課題学習を通じて、生徒が振り返り学習を自らのステップアップに活かすことである。ステップアップさせるためには、授業の導入で生徒が興味関心を持てるような「めあて」の提示が必要となる。特に保健の学習では、興味関心を持てる「めあて」となるような日常生活に関連した健康問題などの内容を取り上げるように工夫した。

2 実践例

① 単元名 健康な生活と疾病の予防「喫煙、飲酒、薬物乱用の要因と適切な対処」（3年）

② 目 標

喫煙、飲酒、薬物乱用をすすめられたときの断り方や適切な対処の仕方を考える。

③ 校内研修とのかかわり

本時の学習課題は、「喫煙、飲酒、薬物乱用をすすめられたときの断り方や適切な対処の仕方を考える」である。前時までに学習した正しい知識をもとに断り方や適切な対処の仕方を考えさせるため、生徒に提示するめあてには「今までの学習を活かし」と付け加えた。そして、「めあて」と「振り返り」につながりをもたせるようにした。

④ 授業の概要

授業の導入で、喫煙、飲酒、薬物乱用の健康への害について振り返ることで興味関心をもたせるようにした。展開では、飲酒を誘われたときにどのように断ればよいかセリフを考えさせた。まずは個人で考え、次に3人から4人の班になり各班で一つの断り方をまとめ、その内容を全体の前で発表させた。終末では、各班の発表を見てどの班の断り方がよいか振り返らせて数人の生徒に発表してもらい、指導者が生徒の振り返りをもとに上手な断り方のポイントを伝えてまとめとした。

過程	学習内容・活動	教師の支援及び留意点
導入 10 分	○前時までの学習を振り返る。 ○喫煙、飲酒、薬物乱用の害を知りながら手を出してしまうきっかけを考える。	○喫煙、飲酒、薬物乱用における既習事項を質問させながら学習内容を思い起こさせる。 ○思いついた意見を自由に発言させる。 ○分類しながら板書する。 ○大きく2つのきっかけに分類させることに気づかせる。 ①自分自身によるきっかけ ②周りの人やマスメディアからのきっかけ
展開 30 分	【めあて】今までの学習を活かし、喫煙、飲酒、薬物乱用の誘惑に負けない断り方を考えよう。 ○お酒を勧められたときの適切な対処の方法を考える。	○まずは、個人で適切な対処のセリフを考えさせる。

		○班になりそれぞれが考えた断り方を発表する。
	○おおむね満足 喫煙、飲酒、薬物乱用の健康について、学習したことを活かして健康への害を説明しながら断り方を考えている。 ◎十分満足 喫煙、飲酒、薬物乱用の健康について、学習したことを自分の生活と関連づけ筋道を立てて健康への害を説明しながら断り方を考えている。	
	○班の意見をまとめる。 (ワークシート) ○それぞれ班ごとに発表する。	○各班で上手な断り方を意識しセリフを選ぶように机間支援する。 ○各班の発表の良さを見つけ出せるように意識して発表を聞くように伝える。
終末 10 分	○学習プリントに今日の授業の振り返りを行う。 ○学習のまとめをする。	○どの班の断り方がよかったか考えさせて振り返りを行わせる。 ○生徒の実生活に結びつけ、今の生活行動が将来の自分を作ること、今の健康が大人になってからの生活につながることを伝える。

⑤ 実践を終えて

- 生徒は、どのように断るか具体的に考えられていた。
- 断り方のロールプレイは、生徒の興味関心が持ててわかりやすかった。
- 振り返りの際に、教師が生徒の発表を補足して「今までの学習」に戻すことができた。
- 断り方を考える際に、相手との人間関係を考えてしまい、「今までの学習」を活用しにくい生徒もいた。

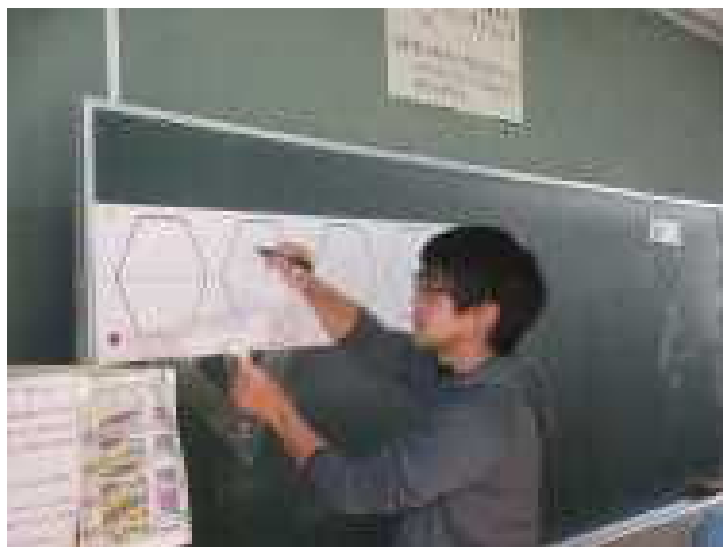
3 実践の成果

- 生徒の興味関心のもてる学習課題「めあて」を準備することで、生徒がより深く考えようとするきっかけにつながった。
- 個人で考えてから班になって考える方法は、自分の考えに留まることなく考えを広げることにつながった。
- 班での学習や他の班の発表を聞くことで、振り返り学習をする際に自分の考えを広めることができた。

4 今後の課題

- 「振り返り」につながる「めあて」を提示して学習させたことはよかったが、考え方が狭くなってしまった生徒もあり、さらに生徒がもっている考えを広げられるようにする工夫も必要だと感じた。
- 授業で学習したことを活かし日常生活において健康につながる行動がとれたり、将来のことを考えての健康の保持増進を心がけたりできるように、保健体育の学習で興味関心が持てるような授業を工夫していきたい。

Ⅲ 研究の成果と課題



1 研究の成果

(1) 授業実践における共通理解について

- ・実践を進める中で職員の中から「ねらい」「振り返り」と書いたカード（掲示物）を作成し、すべての教室の黒板に貼っておくことで、どの学年でもどの授業でも「ねらい」と「振り返り」について意識した指導を積み重ねることができた。
- ・ねらいを提示することにより、多くの先生方はその効用を実感することができた。「ねらいを見ながら（見返ししながら）振り返りや考察文を書く生徒が、以前よりも増えた。」「めあての提示により見通しをもたせたことで、グループで活動する時もねらいにそって課題を考えることができていた。」という意見もあったことから、生徒の姿にも変容が見られるようになってきた。
- ・ねらいを提示することにより指導者側の変化も見られた。「ねらいを示すことで、授業のまとめが想像しやすくなった。」「ねらいを提示することは、教師・生徒共に学習内容を意識できてよい。」という意見からも分かるように、一時間の授業内容を明確にしぼり、焦点化できたことは指導者にとっても分かりやすい授業の流れをつくることができたと考えられる。
- ・授業参観時に、授業の視点をまとめた感想用紙を参観者に配布したことにより、授業参観のポイントを絞ることができた。その後の授業検討会も、視点に絞った話し合いをすることができた。

(2) 授業実践より

- ・英語部会ではシラバスを活用し、一時間ごとの振り返りを積み重ねることができた。
- ・社会科では振り返りの場面でグループ学習を行い、自分だけでなく他者の意見を聞くことで、相互に理解を深められるよう取り組むことができた。
- ・国語科では、振り返りのあり方を模索し、作者への手紙を書くことでその時間に読み取った短歌の内容を振り返ることができた。一時間じっくりと読み込んで初めて書くことができる内容のある振り返りを実施することができた。

(3) 実践における生徒の変容

- ・シラバスを活用することで、生徒は単元全体の見通しをもてるようになった。
- ・生徒は一時間の中での流れもつかみやすくなり、振り返りに書く内容も「〇〇ができた」という内容から「〇〇ができるようになりたい」という自己の変容を書ける生徒も出てきており、質的な変化も見られるようになってきた。

(4) 学習習慣等

- ・学習ノートを家庭での振り返りとすることで、家庭学習の習慣が身に付き、基礎的・基本的な学習事項の定着につながっている。
- ・学習の手引きを各教科ごとに見直し、生徒に紹介することができた。

2 研究の課題と解決に向けての取り組み

(1) 課題

○研究授業を行ったが、色々な都合で授業研究会を開くことができないことがあった。授業時間はなかなか活用できないので、放課後の時間を工夫して先生方には取り組んでいただいていたが、それでも放課後の都合がなかなか合わない時期もあり、折角見た授業の内容を忘れてしまいそうにな

った。

○研修で編成した部会の中に、数学科だけの部会ができてしまった。他の意見を聞くことができないなどの要望の声があった。

○今年度は一人二授業を実施した年であったが、実施する時期が難しく、先生方が迷ってしまうこともあった。実施のタイミングを今後確認し、なるべく簡易にできるよう進めていきたい。

(2) 課題解決に向けての取組

○授業研究会については、どうしても開けない場合は参観した先生方の付箋を集め、推進委員が意見をまとめ、それを回覧・報告するということが考えられる。様々な分掌がある現在の研修では、簡略化できる部分はしていく必要がある。

○なるべく色々な意見がもらえるよう拡大教科部会を設定しているが、その編成に更なる工夫が必要である。

○一人二授業を実施する時期を年度当初から示していく必要がある。

資料1 各教科における目指す生徒像及び振り返り学習 H29 年度 沼田市立薄根中学校

教 科	目指す生徒像 ○既習の知識・技能を活用し、根拠や理由を明確にして課題を解決することを通して、 基礎的・基本的な内容を確実に身に付けた生徒 振り返り学習 ①事実の確認（○○だった、○○ではなかった） ②関係性や一般化の生成（□□の間には△△な関係（法則）がある、□□は△△の一部である） ③自己変容の認識（○○ということが分かった、分からない、○○ができるようになった、まだ○○はできない）
国 語	○他者の考えを知り、自分の考えと比較することで、違いや良さ、足りない部分に気づき、 自分の考えを深めたりまとめたりする生徒 ①その日の学習内容を次時にどのように活かすかを、自分の言葉で書いたり話したりする。 ②獲得した知識などから、興味関心を広げたり自分の表現に活かす方法を考えたりする
社 会	○教師や生徒の話をしっかりと聞いて、様々な社会的事象を組み合わせで自分の意見・ 考えをもてる生徒 ○社会に対する関心を高くもち、資料をもとに読み取り考えたことを、わかりやすく言葉 や図表を使って振り返ることができる生徒
数 学	○主体的に学習に取り組み、既習の知識や考え方等を活用して、課題解決に取り組む生徒 ○授業で学んだ用語や板書等のキーワードをもとにして、本時の学習過程や学習内容につ いて自分でまとめ、表現する学習
理 科	○自分の考えをもって人に伝えたり、友達の考えを聞いて比較したりしながら自分の考え を深めていくことのできる生徒 ○事象や現象を自らの言葉（科学用語、化学式やモデル、図、表やグラフ）で表現する学 習
英 語	（振り返り学習②について） ○1年・・・自分や身の回りの出来事などについて、既習事項を用いて相手と伝え合うこ とができる生徒。 ○2年・・・事実関係を伝えたり、物事について自分の考えを理由を含めて、相手と伝え 合うことができる生徒。 ○3年・・・日本の伝統や学校紹介などあるテーマについて、筋道を立てて、理由も含め て自分の考えを伝え合うことができる生徒。 ①新言語材料を用いて、数文で自分の伝えたいことを相手と伝え合う学習活動 ②単元や単元を貫いたゴールに当たる言語活動において、既習表現を用いて、自分の伝 えたいことを相手と伝え合う学習活動 ③授業や単元のゴールにあたる終末部分において、シラバスで提示した「ねらい」に沿っ て、授業を通してできるようになったことなどについて振り返り、自分の言葉でまとめ る活動
音 楽	○友達と意見を交わし合い、豊かな表現を追求し、表現活動に取り組む生徒 ○曲の特徴をとらえ、音楽的な要素と結びつけて考えられる生徒 ○楽曲から聴き取ったことや表現したいことを伝え合い、高め合う活動。 ○めあてについて、音楽的な要素と結びつけながら考えるとともに自分の言葉で記述する。
保 健 体 育	○仲間と協力して、課題に応じた解決方法を見いだせる生徒 ○運動の技能の向上や、体力向上における自己やグループの課題を、見いだしたり伝え合 ったりする活動 ○課題を解決するための解決方法を、見いだしたり伝え合ったりする活動。
道 徳	○自らを律する節度と、温かさをもって、人と接することができる豊かな心を身に付けた 生徒 ○授業の終末で、道徳の授業を通して確認できた自分の意見や友達の意見を振り返り、自 分の言葉でまとめる活動。

H29授業実践 成果と課題

月日	内 容	○研修の視点…共通実践する「手だて」に基づいて具体的に記述する ◇ねらい …授業で生徒に提示したねらいを記述する ◎成果 …共通実践した手だてについての成果を記述する。 ・課題 …共通実践した手だてについての課題を記述する。
6.2	1年 理科 「植物 光合成と二酸化炭素の関係」 授 鈴木教諭	○単元全体を見通した振り返りシートを活用したことは、学んだことを振り返るのに有効であったか。 ◇実験を通していくつかの条件から、光合成と二酸化炭素の関係を確かめる ◎付箋の活用は、重ねていくと単元の振り返りにもつながるので授業のつながりを意識させるためにもよかった。 ◎ねらいを変えたときには、授業全体への影響が出ることが分かった。 ・生徒は光合成よりも二酸化炭素に着目をしていた。振り返りの場面で何を書かせたいのかを授業づくりのはじめに明確にしておき、そこから展開を考えるとよかった。
6.8	年 社会 「世界の食文化」 授 宮内教諭	○振り返り学習をして分かったことを生徒が確認した後で、粒食文化と粉食文化のまとめをしたことは、さらに学習内容を身に付けさせるのに有効であったか。 ◇世界の伝統料理にはどんな違いや共通点があるのか見つけよう。 ◎学習に必要な道具を提示することで生徒の活動が活発になった。また、話し合い活動ではワークシートを活用しながら活発に話し合いができていた。 ◎グループ学習では、役割、制限時間をきちんと伝えることで生徒は活動しやすくてよかった。 ・生徒が作業分担をすることで、一人ひとりが主体的に活動していた。 ・振り返りをグループで共有することで新たに気づきが生まれていた。
6.8	2年 社会 「産業の発達と幕府政治の動き」 授 遠峯教諭	○グループで観点を絞って振り返りを行わせたことは有効であったか。 ◇農業の進歩や諸産業の発達の様子を調べ、そのあらましを理解する。 ◎導入にスライドを活用しながら江戸時代に使われていた農機具を紹介したことは、生徒の興味関心を惹くことに有効であった。 ◎集団解決の場面で、ホワイトボードを活用しながら特産物が各地で盛んに作られるようになった理由を考えさせたことは有効であった。 ・グループで振り返ったことをもとに個人で感想を書く作業は、不要ではなかったか。
6.9	2年 音楽 「曲の特徴とオーケストラの響き～交響曲第5番ハ短調～」 授 岩崎教諭	○個々の思いや考えを共有させる場面を設けることは、作曲者の生き方や考え方を知り、自分の感じ方を広げるために有効であったか。 ◇曲の特徴を感じ取りながら、オーケストラの演奏を聴こう。 ◎ワークシートは、本時の見通しを持たせるために有効であった。 ◎導入場面で、視覚的な鑑賞教材である「第九」のオリンピック版を取り入れたことは、一人の作曲家に興味関心を高めるために有効であった。 ・振り返りの時間の確保とまとめの方法が課題である。

6.	3年 理科 「酸とアルカリ」 授 内田教諭	○モデル図で見た中和の仕組みを、文章で振り返らせたことは、中和についての自分の考えを深めることに有効であったか。 ◇実験を通して中和と中性の違いを考えよう ◎2人での実験だったこともあり、振り返りまで積極的に活動することができていた。 ・ねらいと振り返りにつながりが見られなかった。 ・ねらいを中和だけにしぼってもよかった。
6.12	1年 英語 「自己紹介をしよう」 授 林教諭	○帯学習のなかで基本となる文を繰り返し習得し、自己の学習を振り返ることは基礎・基本となる知識を習得する上で有効であったか？ ◇英語で自己紹介をする文を考える。 ◎帯学習で繰り返し学習することは、基礎・基本となる文を習得する上で有効である。 ・帯学習の時間と、本時の学習のバランスをとることが大切である。
6.27	3年 英語 「なりきりスピーチをしよう」 授 T 1 藤井教諭 T 2 坂本教諭	○単元のシラバスを活用したことは、生徒が見通しをもって授業に臨み、単元の課題解決に向けて、本時の学習内容を振り返るのに有効であったか。 ◇あることの仕方を知っているかどうか、言えるようにしよう。 ◎授業の初めと終わりにシラバスを用いて、学習内容の確認と振り返りをしたことは、生徒の主体的な取り組みと学習内容の定着に有効であったと思われる。 ・一単位についてのシラバスだけでなく、学年毎、さらに3年間の学習内容についての CAN - DO リストを用いることで、より効果的な指導が可能になるのではないかと感じた。
7.5	2年 英語 「不定詞の形容詞的用法」 授 T 1 坂本教諭 T 2 藤井教諭	○キーセンテンスを繰り返し口頭練習したことは、生徒がねらいに沿って、本時の新出言語材料を振り返るのに有効であったか。 ◇エリン先生に沼田で何かをするためのお勧めの場所を紹介しよう。 ◎キーセンテンスをゲームを用いながら導入したことで、生徒の関心を高められた。 ◎何度も口頭練習したことは、生徒の表現力を高めることに有効であった。 ・個人での振り返りだけでなく、グループ活動を用いた振り返りなど、学びの共有の場を設けられたらよかった。
9.5	3年 数学 「関数 $y = ax^2$ 」 授 T 1 浅見教諭 T 2 上山教諭	○ワークシートにまとめたことや板書の内容をもとに振り返り学習を取り入れたことは、ねらいを達成するために有効であったか。 ◇今まで学習した関数の他に、どんな関数があるか調べてみよう。 ◎既習事項や本時で学んだ学習内容を黒板に整理し、振り返りのポイントを示すことで、生徒は自分の言葉で本時を振り返り、学習内容を確認することができた。 ・振り返りの時間を確保するために、追求場面を効率よく展開できるよう ICT の導入を進めていく。 ・ねらいを達せするためのめあてや課題設定の仕方を工夫し、生徒が主体的に授業に臨めるようにする必要を感じた。

9.7	3年 国語 「和歌から感じた自分の思いを伝え合おう」 授 T 1 小幡教諭 T 2 西本教諭	○手紙を書く活動を取り入れたことは和歌の読みを深める活動の振り返りとして効果的であったか。 ◇和歌から感じた自分の思いを伝え合おう ◎手紙を書くという形式にしたことで、「一人称」の視点から自分の心情や考えを振り返ることができていた。また、グループでの意見交換を材料に手紙を書いていたので、振り返りとしては効果的であった。 ・手紙を全体で共有する時間がもう少しあってもよかったのではないかな。文量を制限するなどすれば時間を確保できる。 ・手紙をグループ席のまま書かせていたが、席を元に戻せばより個人で集中して書くことができたのではないかな。
10.31	2年 数学 「多角形の内角の和」 授 T 1 上山教諭 T 2 浅見教諭	○めあての提示するタイミングを工夫し、グループでの活動を通して全体での本時の活動を振り返ることは、ねらいの達成に有効であったか。 ◇多角形の内角の和を、三角形の内角の和が180°であることを利用して考えよう。 ◎めあての提示を工夫することで、生徒が本時の内容に進んで取り組むことができた。また、グループでの交流で自分の考えを他者に伝え合い考えを深めることができていた。 ・いくつか考え方が出たのを活かして、複数の考え方で考えさせ収束させていくとより効果的である。またTTをより活かした授業展開を考えていく。 ・口頭だけであると全員に伝わりづらいので記述での振り返りを検討する。また復習を兼ねて問題演習に取り組みさせる時間を確保した方がよいのではないかな。
11.24	3年 保健体育 「健康な生活と疾病の予防」 授 反町教諭	○生徒が断り方を考える際に、今までの学習を活用できるよう「めあて」に提示したことは有効であったか。 ◇喫煙、飲酒、薬物乱用を進められたときの断り方や適切な対処の仕方を考えよう。 ◎生徒は、どのように断るか具体的に考えられていた。断り方のロールプレイはわかりやすかった。振り返りの際に、教師が生徒の発表を補足して「今までの学習」に戻すことができた。 ・断り方を考える際に、相手との人間関係を考えてしまい、「今までの学習」を活用しにくい生徒もいた。 ・ホワイトボードの字が小さく遠くの生徒からは見えなかった。
11.27	1年 国語 「少年の日の思い出」 授 大河原教諭	○登場人物の心情を読み取るのに、自分と同じ意見や異なる意見の仲間と交流したことは、自分の考えを深めるために有効であったか。 ◇チョウを押し潰した「ぼく」の気持ちを考え、仲間と交流しながら深めよう。 ◎話し合い活動をすることによって、自分の考えに変化が出たり、自信をもてる生徒が出たりした。「深める」ということはどういうことか明らかにしていたため、生徒がどのような結論に達していたいか見通しがもてていた。 ・たくさんの生徒の意見が出たが、どういう考えに至ったらよかったのか、

		はっきりしないままであった。 ・自分の考えが、文章の叙述に即して書かれているかどうか評価する手立てがはっきりしていなかった。
12.6	1年 数学 「平面図形」 授 高橋教諭	○課題やねらいの設定や提示するタイミングを工夫し、本時の活動を記述し振り返り活動をするには、ねらいを達成することに有効であったか。 ◇2つの図形をぴったりと重ねるための図形の移動方法を何通りか考えよう。 ◎一度ねらいを示した後に活動の説明を行い、再度ねらいを確認して一文を付け加えたことで、生徒の課題への意識が高まった。 ・評価の視点があいまいであったことが生徒の活動にも反映されてしまった。多様な活動を引き出したかったが、もっと視点を絞ってもよかった。



はじめに

授業では・・・

- チャイム着席を心がけましょう。準備や教室移動は休み時間中に。
- 道具がすべてそろっているよう、連絡黒板の内容をライフに書きましょう。
- 先生の話をよくききましょう。 3つの『きく』①聞く ②聴く ③訊く
- ノートを取りましょう。黒板の文字の他にも授業の疑問点や先生の話などを一緒に書き込んでおきましょう。
- よい姿勢を心がけましょう。
- 分からないところは質問しましょう。授業終了後や職員室でも気軽に訊いてみましょう。
- 積極的に発言や課題、実験をしましょう。自主的に動くことが一番効果的な学習です。

家庭では・・・

- 翌日の準備を前日にしましょう。「ちょっと余裕がある」と、学校生活を楽しめます。
- 宿題を最優先させましょう。
- 学習開始時刻を決めておくと、それが習慣になります。
- 家庭学習の基本は復習です。今日習ったことや、テストに向けての学習をしましょう。
- 予習をしておくと、授業が「内容が分かっていて良い気分」で受けることができます。
- 学習する場所を決めておくとよいです。なるべく机と椅子がある場所がよいです。(長時間座ってられる)
- 「ながら勉強」にならないよう気をつけましょう。(TV、音楽、動画、SNSなど)
- 学習よりも注意の向いてしまうものを近くに置かないようにしましょう。(ゲーム、マンガ、音楽プレイヤーなど)

テスト前には・・・

- 出題の傾向と範囲をつかみましょう。教科書やワークの問題は要チェック！
- 間に合うように準備をしましょう。「前日に徹夜」よりも「2～3週間前から余裕をもって」。
- 「分からない」をテストまでに「分かる」に変えましょう。
- 時間が経つと覚えていたことも忘れます。くり返し覚えたり問題を解いたりすることで効率良く覚えることができます。

国語科編

授 業 成績にも関わります！必ずやり抜こう。

○授業に集中できるよう、積極的な姿勢で授業にのぞもう。

- ・準備をしっかりとし、提出物を必ず仕上げよう。
- ・丁寧な文字で書き、習った漢字は積極的に使い、色を工夫したり独自のメモを加えたりして充実したノートを作ろう。
- ・積極的に発言・質問しよう。人の話をうなずきながらしっかり聞こう。

復 習 自主勉強で必ずやろう！

○新出漢字・全学年の漢字の練習・テストをしよう。(間違っただものは再度練習)

○漢字を正しい書き順で書けるように練習しよう。(特に難しいもの)

○教科書の文を視写し、学習した所の文章を繰り返し読もう。

○単元で出てきた難しい語句の意味を調べ、短文を作ろう。

○ノートやプリント、ワーク、問題集、テストを繰り返しやろう。

その他発展学習等 工夫して自主勉強を広げていこう！

○新聞記事を視写する ○新聞記事の感想を書く ○手紙を書く

○作文、物語、小説などを書く ○資料集で勉強する ○漢字検定に挑戦する

○読書をする(自分の力に応じて、少し難しい本、代表的な日本文学の本や外国の本等)

○古典作品や詩を暗記する。○敬語の研究をする ○スピーチ練習(録音をしてきく)

○教科書以外の漢字やことわざ、四字熟語、慣用句、故事成語など書き取って覚える。



数学科編

予 習

- 新しい単元に入る前に、1年前に学習した内容を復習しておくと言習になります。
- 忘れ物がないようにしよう。

授 業

- 自分で考える、友達と一緒に考える、考えたことを発表したり説明したりしよう。
※積極的に発表する・考えることが、数学を楽しむコツです。
※数学を楽しむことが理解への近道です。
- 疑問点はすぐに質問。授業中に「？」はなくしておこう。

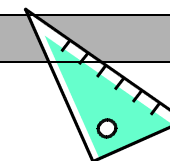
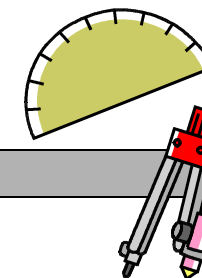
復 習

- ノートとプリントでその日の授業を振り返ろう！ポイントはどこだったかな？？
- 計算など練習問題をたくさんしよう。

そ の 他

- 丸付けまでが大事な勉強。しっかりと確認しよう。
- 間違いは絶対に消さないこと！
＜＜間違い→どこが違うのか確認する＞＞

★今が数学好き、得意になるチャンス！！！一緒にがんばろう★★



社会科編

予 習

- 授業前に前回学習した内容を確認しておこう。(特に歴史は前の時間とのつながりが大きい！)
- 次回学習する教科書の場所を必ず読んでおこう。
- 読んで意味の分からない言葉は辞書を引いて意味調べしておこう。

授 業

- 資料から多くの情報を読み取ろう。
- 複数の資料を結びつけて読み取ろう。
- 読み取ったことから時代や地域の特色を考えよう。
- 用語集以外に国語辞典を持参し、分からない言葉は意味調べしよう。

復 習

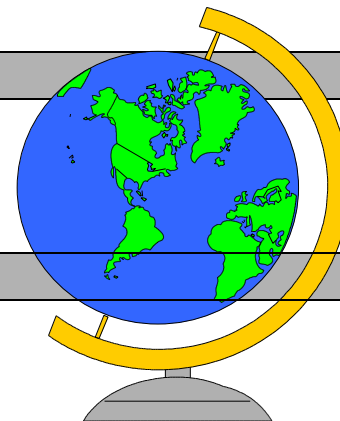
- ノートを見直して学習内容を確認しよう。
- ワークを使って問題練習をしよう。できなかった問題は何回も解こう。

テ ス ト 対 策

- 教科書やノートを読み返そう。
- ワークを使って問題練習をしよう。できなかった問題は何回も解こう。
- 一度やった単元テスト等、繰り返し復習しよう。

こ ん な こ と が で き る と

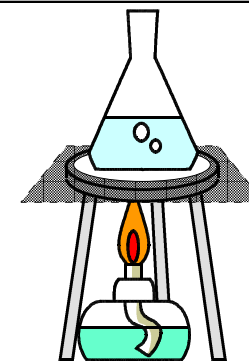
- 新聞やニュースを読んだり見たりしよう。
- テレビで見た国や地域を地図帳で調べよう。
- 歴史小説を読んでみよう。



理科編

授 業

- 理科は、「未知」を「発見」して「調べる」学問です。
授業での発見の喜びを楽しみましょう。
- 授業は前の時間の続きです。続きが分かるように、忘れ物がないようにしましょう。
- 授業を真剣に聞き、プリント・ノートにもれなく記入し、しっかりと保管しておこう。
- 観察・実験を人まかせにせず、自分から積極的に参加しよう。
- 予想を立てて実験・観察しよう。
- 自分の意見をもって積極的に発言し、授業に参加しよう。



復 習

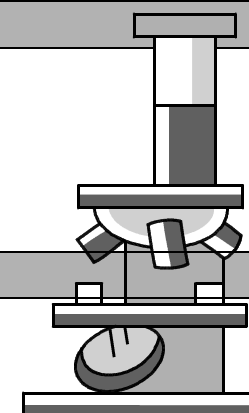
- 観察・実験の目的や方法、結果、考察等を中心に、ファイルを見直し、ノートに書き写してみよう
- ワークで学習内容が身に付いたかチェックしてみよう。
- 用語や言葉が理解できているか確認しよう。

テ ス ト 対 策

- 教科書やファイルをもう一度見直そう。
- テスト範囲のワークを3回やってみよう。(くり返すことで脳は覚えます！)
- 単元テストをもう一度見直そう。

こ ん な こ と が で き る と

- 理科の資料集をながめるのも良い勉強です。
- 科学番組や雑誌、本を見てみよう。
- 自由研究や理科学研究発表会に挑戦してみよう。



英語科編

予 習

○ノートに予習をしよう。

(①新しい単語を調べる ②教科書本文を書く ③本文の意味を考えてノートに書く)

授 業

○先生や友達の発言は、顔を見て聴こう。

○大きな口と声で、英語を話そう。(間違えてもOK!)

○ゲームなどの活動は、ルールを守って大いに楽しもう。

復 習

○Bノートに単語・基本文の練習をしよう

○音読練習をしよう。

そ の 他 発 展 学 習 等

◎学習したことを用いて、自分ことや身の回りのことについて表現してみよう。

(日記、自己紹介、他己紹介、沼田の紹介、日本や日本文化の紹介等)

○英検など、各種検定試験に積極的に挑戦しよう。

